

森美術館 2026 年度企画展スケジュール

人間とは何か、感情とは何か、我々はどこから来て、どこへ向かうのか

戦争や自然災害など世界各地で混迷や不安が拡がるなか、さまざまな政治や社会の現状、再考された歴史は現代アート作品にも明らかに投影され、批評性の高い表現が多く見られます。森美術館でも世界各地の多様な視点を通した現代アートを紹介していますが、私たちが異なる文化に出会い、差異を学び、他者を想像することは、複数の価値観が共存するために極めて重要だと考えています。一方で、多様性を理解しながらも、あらゆる文化に通底する普遍性や人間性を考える必要性も感じています。森美術館の 2026 年度の企画展では、人間とは何か、感情とは何か、我々はどこから来て、どこへ向かうのか、といった根源的な問いを、あらためて考えてみたいと思います。

2026 年 4 月末からはロン・ミュエクの個展を開催。スーパーリアルな人間の彫刻で世界的に知られる、ロン・ミュエクの作品は、新生児から老人まであらゆる年齢や性別の人体像が、ときに小さく、ときに巨大なスケールで表現されますが、そこでは人類に共通する孤独、不安、老いへの恐れといった感情が見事に描写されています。また 10 月末からは森万里子の個展を開催。1990 年代に SF や日本の大衆文化の世界観を自ら演じたパフォーマンスや写真作品で注目された森万里子は、その後、世界各地の古代哲学、宗教観、精神世界などを探求しながら、国や文化の境界を超越して人々が繋がる「Oneness」^{ワンネス}の概念を作品化してきました。

ヒューマニティー、すなわち人間性や人類について、その意味を掘り下げ、同時に壮大な宇宙の神秘を考えさせる 2 つの大規模個展に、どうぞご期待ください。

森美術館 館長 片岡真実

ロン・ミュエク展

会期:

2026 年 4 月 29 日 [水・祝] – 9 月 23 日 [水・祝]



ロン・ミュエク
《イン・ベッド》
2005 年 ミクストメディア 162 × 650 × 395 cm
所蔵: カルティエ現代美術財団
展示風景: 「ロン・ミュエク」韓国国立現代美術館ソウル館 2025 年
撮影: ナム・キヨン 画像提供: カルティエ現代美術財団、韓国国立現代美術館

森万里子展

会期:

2026 年 10 月 31 日 [土] – 2027 年 3 月 28 日 [日]



森万里子
《Wave UFO》
1999-2002 年
脳波インターフェース、ビジョンドーム、プロジェクター、コンピュータシステム、グラスファイバー、テクノジェル®、アクリル、カーボンファイバー、アルミニウム、マグネシウム
528 × 1134 × 493 cm
展示風景: 「森万里子: Wave UFO」プレゲンツ美術館(オーストリア)2003 年
撮影: リチャード・リーロイド

最新のプレス画像は、こちらの URL より申請、ダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/fy2026/>

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 幡井、日比、伊原

Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

ロン・ミュエク展

会期：2026年4月29日[水・祝]－9月23日[水・祝]

会場：森美術館（六本木ヒルズ森タワー53階）

主催：森美術館、カルティエ現代美術財団

企画：近藤健一（森美術館シニア・キュレーター）、チャーリー・クラーク（本展アソシエイト・キュレーター）、
キアラ・アグラディ（カルティエ現代美術財団キュレーター）

ロン・ミュエク（1958年オーストラリア生まれ、英国在住）は、革新的な素材や技法、表現方法を用いて具象彫刻の可能性を押し広げてきた現代美術作家です。ロンドンのロイヤル・アカデミー・オブ・アーツで開催された「センセーション：サーチ・コレクションのヤング・ブリティッシュ・アーティスト」展（1997年）への参加で注目を集めて以来、世界各地で個展を開催してきました。

人間を綿密に観察し、哲学的な思索を重ねて制作されたミュエクの作品は、洗練され、生命感に溢れ、孤独、脆さや弱さ、不安、レジリエンスといった人間の内面的な感情や体験を巧みに表現しています。実際の人物よりもはるかに大きく、あるいは小さく造られるその彫刻は、スケールの相対性や私たちの知覚に対する先入観への挑戦でもあります。神秘的でありながら圧倒的な存在感を放ち、私たちと身体との関係、そして存在そのものとの関係を問いかけます。

本展は、作家とカルティエ現代美術財団との長きに渡る関係性によって企画されたもので、2023年パリの同財団での開催を起点とし、ミラノとソウルを経て、森美術館で開催されます。日本では、2008年に金沢21世紀美術館で回顧展が開催されて以来、2度目の個展になります。大型作品を中心に、初期の代表作から近作まで10点余りを展示。フランスの写真家・映画監督のゴートイエ・ドゥブロンドによる作家のスタジオと制作作業を記録した貴重な写真作品と映像作品も併せて公開し、作家の制作を包括的に紹介します。

ロン・ミュエク 略歴

1958年オーストラリア・メルボルン生まれ、1986年より英国在住。

映画・広告業界で20年以上働いた後、1990年代半ばに彫刻の制作を開始。1996年、ロンドンのヘイワード・ギャラリーで開催された展覧会で、ポルトガル人画家パウラ・レゴの絵画と共に彼の彫刻《ピノキオ》（1996年）が展示され現代美術界にデビュー。翌年、他界した父親を小さく表現した《死んだ父》（1996-1997年）が、同地のロイヤル・アカデミー・オブ・アーツで開催された「センセーション：サーチ・コレクションのヤング・ブリティッシュ・アーティスト」展に出品され注目を集める。以来、ミュエクは世界各地の権威ある美術館で作品を発表。近年ではソウル、オランダのハーグで個展を開催し、今後はシドニーでの個展が予定されている。一作品を制作するために数ヶ月、時には数年を要することもあり、過去30年間に制作された作品総数は50点あまりしかない。



《デキン／マン》
監督：ゴートイエ・ドゥブロンド
2019-2025年
ハイビジョン・ビデオ
13分



ロン・ミュエク 《枝を持つ女》 2009年
ミクストメディア 170 × 183 × 120 cm
所蔵：カルティエ現代美術財団
展示風景：「ロン・ミュエク」韓国国立現代美術館ソウル館 2025年
撮影：ナム・キヨン
画像提供：カルティエ現代美術財団、韓国国立現代美術館

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報事務局（共同ピーアール内）：幡井、日比、伊原

Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

森万里子展

会期：2026年10月31日[土]－2027年3月28日[日]

会場：森美術館（六本木ヒルズ森タワー53階）

主催：森美術館

協力：グッゲンハイム美術館アジア・アート・イニシアティブ

企画：アレクサンドラ・モンロー（グッゲンハイム美術館シニア・キュレーター・アット・ラージ）、片岡真実（森美術館館長）

森万里子は、美術、哲学、科学を統合させ、未来を展望する作品を発表してきました。1990年代に、ポストヒューマン、サイボーグ的アイデンティティを演じる作品で国際的に注目されたのち、彼女の関心は、近未来的な世界観と日本のアニメ文化などを融合させた美学から、日本の自然信仰、仏教といった古代思想や精神世界、さらには縄文、ケルトなどの古代文化へと徐々に拡張してきました。また、量子論、宇宙物理学、神経物理学にも接点を求めて、第一線の科学者やエンジニアともコラボレーション。2000年以降は没入型の空間体験を促す大型インスタレーションも制作しています。作品に共通する過去と未来を横断する時間の超越性は、今日も森が探求しつづけるコンセプト、仏教的な宇宙観を起点に、あらゆる物事の相互関連性を希求する「Oneness*」へ繋がっていきます。2010年には自然環境と人類の繋がりを考えるパブリックアートを六大陸に恒久的に設置することを目指しファウ公益財団を設立、すでにブラジルと宮古島で実現しています。

本展は、2002年に東京都現代美術館で開催された「森万里子 ピュアランド」展以来、国内では24年ぶりの美術館での個展となります。インタラクティブなインスタレーション、彫刻、ビデオ、写真、ドローイング、パフォーマンスなど30年以上にわたる実践から約80点の作品が一堂に会する大規模個展です。初期から最新作まで、代表作が緩やかに時代を追って展示され、作品資料やアーカイブも初公開されます。

森万里子の唯一無二な世界は、全世界の最大の課題であるヒューマニティーやエコロジーについても、示唆に富んだものになることでしょう。

* 万物の一体性

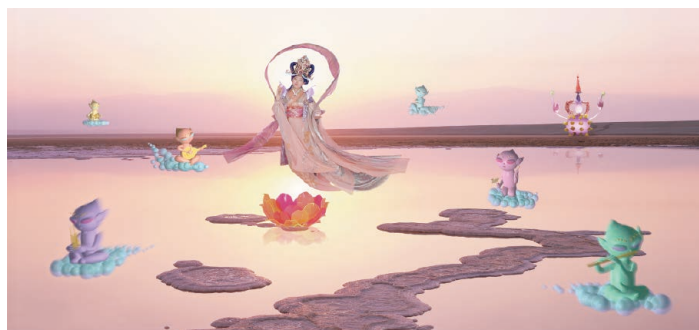
森万里子 略歴

1967年東京生まれ、ニューヨーク、東京および宮古島在住。

1992年ロンドンのチェルシー・カレッジ・オブ・アート卒業後、1993年ニューヨークのホイットニー美術館インディペンデント・スタディ・プログラム修了。1997年ベネチア・ビエンナーレで優秀賞受賞、2014年ロンドン芸術大学から名誉フェローが授与されるなど、さまざまな賞を受賞。2005年のベネチア・ビエンナーレでは代表作となる《Wave UFO》（1999-2002年）が注目される。ロンドンのサーペンタイン・ギャラリー（1998年）、ニューヨークのブルックリン美術館（1999年）、パリのボンピドゥーセンター（2000年）、東京都現代美術館（2002年）、ロンドンのロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ（2012年）、ニューヨークのジャパン・ソサエティー（2013年）など世界各地の主要な美術館で個展を開催。ニューヨーク近代美術館（MoMA）やソロモン・R・グッゲンハイム美術館、ロンドンのテート・モダンなど数多くの美術館に作品が収蔵されている。



撮影：下村一喜



【左】
森万里子
《トムナフーリ》
2006年
ガラス、ステンレス、LED、リアルタイム制御システム
327.4 × 115.3 × 39.6 cm
撮影：リチャード・リーロイド

【右】
森万里子
《エネテリック・コスモス：ピュア・ランド》
1996-1998年
写真、ガラス、ステンレス
304.8 × 609.6 × 2.2 cm

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報事務局（共同ピーアール内）：幡井、日比、伊原
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp